
「学修者本位の教育」の基本方針

白百合女子大学は、以下の方針に基づき、「学修者本位の教育」を実現する。

1. 「学位授与方針」「教育課程編成方針」「入学者受入方針」に基づき、学生が入学から卒業までに身につけるべき力を明確にし、一人ひとりが密度の濃い主体的な学修を通じて、学部・学科の「学位授与方針」に定める専攻分野における知識・能力を着実に習得できるよう、教育課程を編成する。
2. 全専門領域の学びの共通の基盤を成すような、建学の精神に基づく人間性・社会性並びに現代人に普遍的な国際教養及び情報に関する知識やスキルが身につくよう、全学基盤教育のカリキュラムを編成する
3. 専門領域を横断して履修できる教育プログラムを設置することで、専攻する学びを多様な文脈に接続し、幅広い教養や高い公共性・倫理性、時代の変化に合わせて積極的に社会を支え、社会を改善していく資質を育む機会を提供する。留学や海外研修、インターンシップ、ボランティア活動、社会連携・地域貢献活動など、国内外で社会や地域と繋がる仕組みを整える。

4. 学生に学修過程や学修成果を記録し、必要に応じてそれらを系統的に選択し、次に取り組むべき課題をみつけてステップアップを図る機会を提供するとともに、ダブルアドバイザーをはじめとして多様な教職員が関わることで、学生一人ひとりの個性や状況、目標・興味関心等を踏まえたきめ細やかな学修支援・キャリア支援・生活支援等を行う。
5. よりよい学びの実現に学生が主体的に関与できるよう、カリキュラム編成、設備・施設を含む学修環境の改善に学生が参画する仕組みと、TA・SA や学生スタッフ等として教職員とともに大学運営に関与する機会を充実させる。
6. 学修者本位の教育の実現に必要な知識や技術を高めるため、教職員を対象としたファカルティ・ディベロップメント（FD）やスタッフ・ディベロップメント（SD）を実施する。
7. アセスメントポリシーに則り、教育課程が有効に機能しているかを、IR 情報等を踏まえて客観的に点検・評価し、必要な改善を行うサイクルを整備・運用する。